

マルチメディア最終課題

第 18 回ショパン国際ピアノコンクール一次予選に 関するデータ分析

(はじめに)

2021 年 10 月に開催された第 18 回ショパン国際ピアノコンクールで 51 年ぶりに日本人が 2 位に入賞したと話題になったので、第 18 回ショパン国際ピアノコンクールを題材に取り上げた。私は音楽が好きで、ピアノの演奏を CD やコンサートでよく聴くが、演奏の個性や特徴、好き嫌いなどは聴いていて判断できるものの、上手い下手に関しては一定の上限を超えると、俗に言うプロピアニストになると、当然のようにみんな上手に聴こえて、演奏の良し悪しがわからない。ピアノのコンクールのトップとも言えるショパン国際ピアノコンクールに関しては(特にファイナリストに関しては)演奏を聞いて順位を当てようとしても到底当てられないだろうと感じる。もちろん、プロピアニストたちが競うコンクールであるため楽譜通り間違えずに弾けているかなどという次元でないのは確かであり、素人が聴いて判断できるものではないとは思いますが、昨今話題になった FIFA ワールドカップ・カタール 2022 での日本対スペイン戦での審判が判断に使った「三苦の 1 ミリ」を思うと、ショパン国際ピアノコンクールでも同じように、誰が見てもわかるような数値的な判断をしたら、W 杯のように老若男女楽しめるものになるのではないかと考える。

今回は、ショパン国際ピアノコンクールの評価を数値的に明確にしたいという大きな目標のために、まず、現状の評価基準や評価と曲の関係性について調査していきたい。

(目標)

第 18 回ショパン国際ピアノコンクールの一次予選に関して、評価基準や評価と選曲の関係について調べたい。

(第 18 回ショパン国際ピアノコンクールについて)

ショパン国際ピアノコンクールはショパンの祖国ポーランドの首都ワルシャワにある、国立ワルシャワフィルハーモニーホールを舞台に、5 年に 1 度開催されるピアノコンクールである。第 18 回では 151 名の予備予選参加者のうち 87 名が本大会への出場資格を得た。本大会は一次予選、二次予選、三次予選、ファイナルまで行われ、一次予選では 87 名から

45 名に、二次予選では 45 名から 23 名まで、三次予選では 23 名から 12 名まで、そしてファイナルで 6 位までの入賞者を決める。上位は該当者なしの回もあるが、第 18 回では該当者なしの順位はなかった。

2015 年第 17 回ショパン国際ピアノコンクールから採点表というものが公開されるようになったものの、未だファイナルの採点は非公開であったりと評価基準が明確化されていない点も存在している。採点は二種類あり、得点形式と yes/no 形式がある。

得点形式とは、演奏を聞いて、審査員がそれぞれ 1~25 の整数で点数をつけていき、審査員のつけた点数の平均がそのコンテストの得点とする評価形式である。

yes/no 形式とは、審査員に対して「次の演奏も聴きたいですか？」という質問を投げかけ、その質問に関して yes か no で答えてもらい、yes と答えた審査員の割合 0~100 で表される。

yes を答えるには一次予選では得点形式で 18 点以上つけていなければならない、no を答えるには 18 点未満をつけていなければならない。二次予選三次予選では yes/no を答えるのに必要な点数条件が異なるが今回は説明を省く。

一次予選では以下の(a)群から一曲、(b)群から一曲、(c)群から一曲、(d)群から一曲の計 4 曲を弾く。演奏順は自由だが、(a)群と(b)群の曲は連続して弾かなくてはならない。

(a)群 エチュード	(b)群 エチュード
ハ長調 op.10-1 嬰ハ短調 op.10-4 変ト長調 op.10-5 ヘ長調 op.10-8 ハ短調 op.10-12 イ短調 op.25-11	イ短調 op.10-2 ハ長調 op.10-7 変イ長調 op.10-10 変ホ長調 op.10-11 イ短調 op.25-4 ホ短調 op.25-5 変ト短調 op.25-6 ロ短調 op.25-10
(c)群	(d)群
ノクターン ロ長調 op.9-3 ノクターン 嬰ハ短調 op.27-1 ノクターン 変ニ長調 op.27-2 ノクターン ト長調 op.37-2 ノクターン ハ短調 op.48-1 ノクターン 嬰ヘ短調 op.48-2 ノクターン 変イ長調 op.55-2 ノクターン ロ長調 op.62-1 ノクターン ホ長調 op.62-2 エチュード ホ長調 op.10-3 エチュード 変ホ短調 op.10-6 エチュード 嬰ハ短調 op.25-7	バラード第 1 番 ト短調 op.23 バラード第 2 番 ヘ長調 op.38 バラード第 3 番 変イ長調 op.47 バラード第 4 番 ヘ短調 op.52 舟歌 嬰ヘ長調 op.60 幻想曲 ヘ短調 op.49 スケルツォ第 1 番 ロ短調 op.20 スケルツォ第 2 番 変ロ短調 op.31 スケルツォ第 3 番 嬰ハ短調 op.39 スケルツォ第 4 番 ホ長調 op.54

(データの内容)

第 18 回ショパン国際ピアノコンクール一次予選出場者全 87 名のデータを利用した。
用いた要素は、以下の通りである。

順位 (rank)	・ 上位 6 位までは順位の値 ・ ファイナリスト 12 名には選ばれたが入賞できなかった場合 → 12 ・ 三次予選までは進みファイナルには進めなかった場合 → 23 ・ 二次予選までは進み三次予選には進めなかった場合 → 45 ・ 二次予選に進めなかった場合 → 87	
ピアノの種類 (piano)	スタインウェイ モデル D-274 製造番号 611479 → 1 スタインウェイ モデル D-274 製造番号 612300 → 2 ヤマハ モデル CFX 製造番号 6524400 → 3 ファツィオリ モデル F278 製造番号 2782230 → 4 カワイ モデル Shigeru Ex 製造番号 2718001 → 5	
一次予選の「また演奏を聞きたいか」という質問に対して yes をあげた審査員の割合 (ox)	0~100	
一次予選で審査員たちがつけた点数の平均 (point)	1~25	
性別 (gender)	男→0 女→1	
各曲に対して選んだかどうか エチュード(etu_opx-x) ノクターン(noc_opx-x) バラード(bal_opx) 舟歌(barca_opx) 幻想曲(fan_opx) スケルツォ(sch_opx)	選ばなかった→0 選んだ→1	

Main

Coloring

Text

☐ stage

☒ day

☐ None

1

2

3

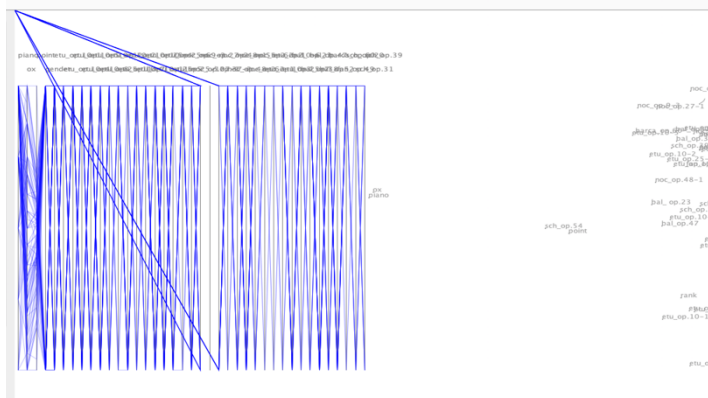
4

5

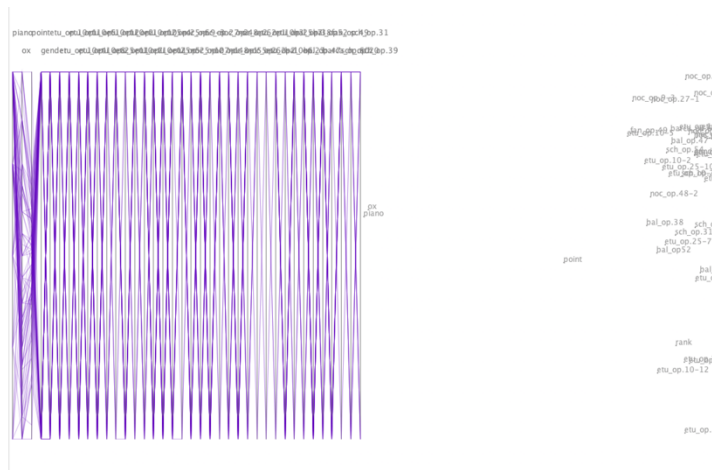
(分析結果)

【1.全体】

全体図は以下の通りである。



一部グラフが乱れているが、これは要素ノクターン op37-2 が全て 0 であったためだと考えられる。そこで、ノクターン op37-2 を除いたデータを作成した。全体図は以下の通りである。

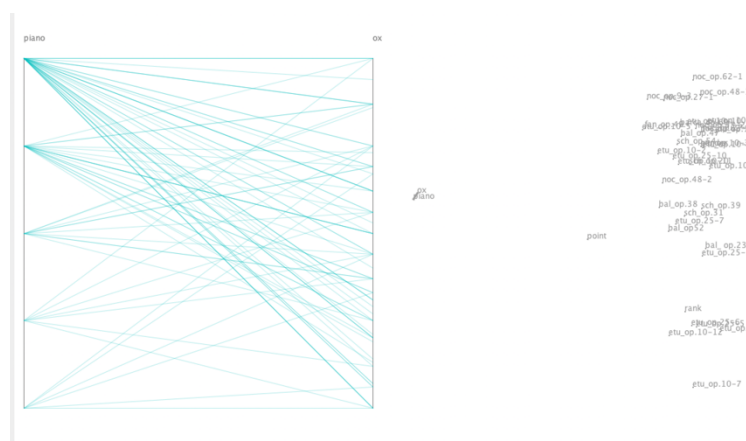


まず、散布図から ox と piano に強い相関があることがわかる。この相関関係からは選んだピアノによって審査員がもう一度演奏を聴きたいと思うかどうかが左右されるということになる。

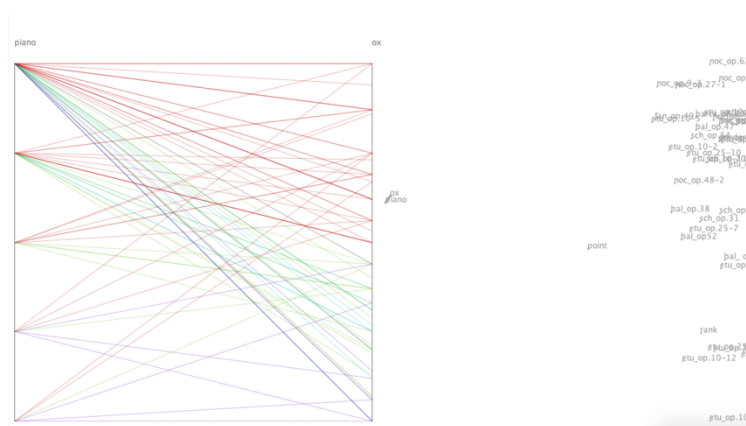
私の予想では、ox と point に非常に相関関係があり、ox と point と rank にも強い相関関係があって、技術面での点数が高ければ高いほど、もう一度聴きたいと評価される演奏であり、一次予選でもう一度聴きたいと思わせる演奏ができ高得点を獲得した演奏者はそのまま順

当にファイナルまで進んでいい成績を残すものだと考えていたが、予想外の結果だった。ox と point が離れていることから、審査は審査員の好みが入り正常に行われていないのではないかという疑念が生まれてしまう。

【2.ox と piano】



ox と piano に関して PCP を見てみると、ox の上位者はスタインウェイ モデル D-274 製造番号 611479 選んでいる傾向が強いとわかる。また、カワイ モデル Shigeru Ex 製造番号 2718001 を使用した演奏者は ox が非常に低くなることはない。ヤマハ モデル CFX 製造番号 6524400 を使用した演奏者も ox が非常に低くなることはないが非常に高くなることもないことがわかる。

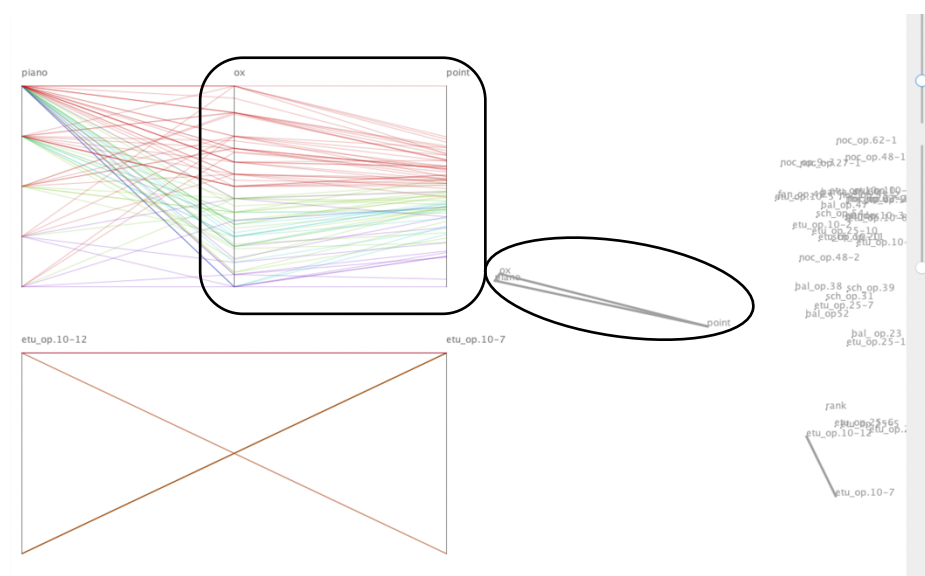


またカテゴリーstage を利用した場合、ファイナリストはスタインウェイ モデル D-274 製造番号 612300 とヤマハ モデル CFX 製造番号 6524400 を使用していないことがわかり、特にヤマハ モデル CFX 製造番号 6524400 を使用した場合は三次予選以降に進んでいないことがわかるので、上記で記した ox が非常に低くなることはないが非常に高くなる

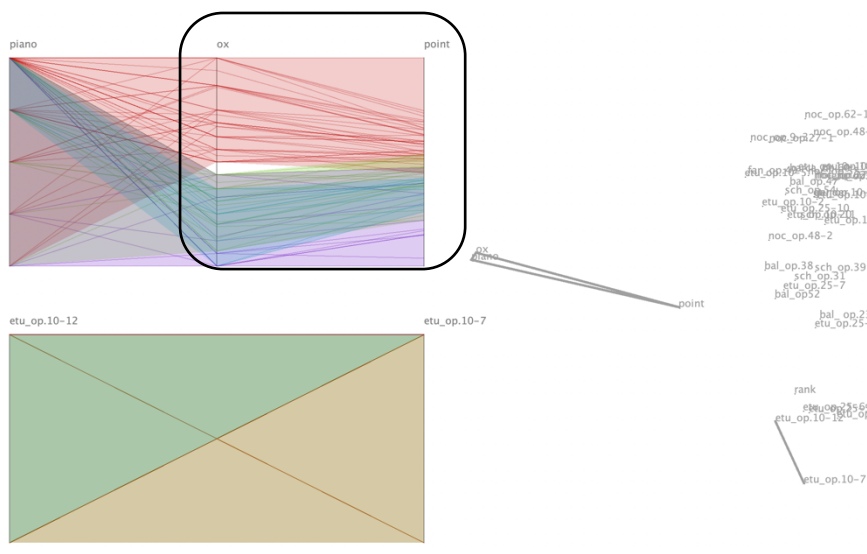
こともないという結果は信憑性が高いように感じる。つまり、ヤマハ モデル CFX 製造番号 6524400 を選ぶと、ox が高くなりにくくコンクールでは不利になることが言えるのではないか。ヤマハは1985年からコンクールで使用されるようになり、公式ピアノとして定着していて、モデル CFX 製造番号 6524400 はショパンに相応しい音を目指して調整されているが、スタインウェイに比べてヤマハは常設されているコンサート会場が少なく、出場者が引き慣れていない点や、予選当日のピアノのコンディションの影響で結果が奮わなかったと考えられ、次回第19回へのヤマハの課題になると考えられる。

【3. piano と ox と point】

散布図のパラメータを動かすと、piano と ox と point に関しても相関が見られる。



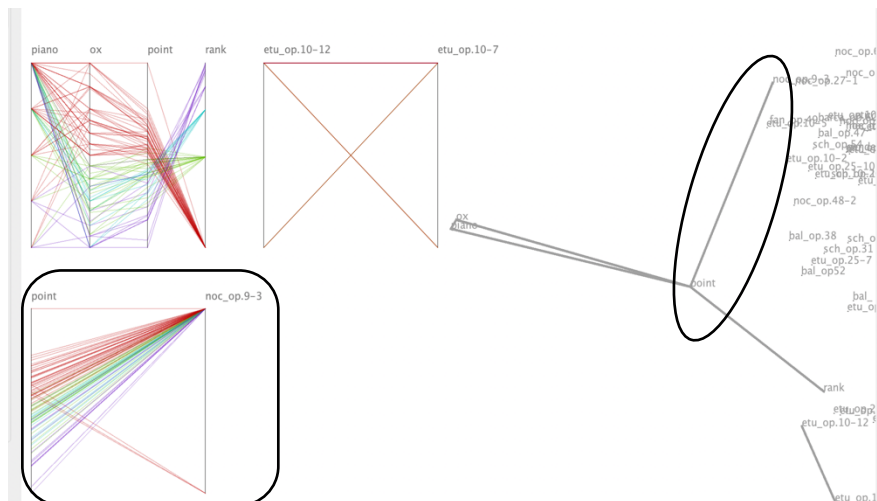
上図の PCP の黒枠で囲った部分に着目すると、全体的に ox の値の幅よりも point の値の幅の方が小さいことがわかる。point が高ければもう一度聴きたいと思う審査員が多いというのは生理的に納得がいくが、point には差がないにも関わらず ox では差が生まれるという上記 PCP でわかる結果が生じているのは不思議に感じるおそらく、point は平均値であるため 1 人のコンテスタントに対してほとんどの審査員が高得点をつけて次も聴きたいと答える中、2,3 人の審査員が 0 点をつけて次を聴きたいと思わない、と答えた場合、ox は高くなるが、point は高くなるということが起こる。ox よりも point の値の幅が狭いのは、このようなことが起きているからではないだろうか。つまり、審査員それぞれで評価は異なり、評価は審査員の好みに影響を受けると考えられる。



また上図のように色分けすると、point では一次予選を突破できる境界線が見えないが、ox では明確に境界が存在していることがわかり、一次予選を突破できるかどうかは ox が大きな基準になっていると考えられる。つまり、次の演奏も聴きたいと思わせられるかどうかは重要であり、次も聴きたいと思わせる演奏を目指す必要があるが、「次も聴きたい」という感情は数値化が難しい（現に point で明確に表せていない）ので、その時の審査員の状態や好みに左右されると言わざるを得ない。

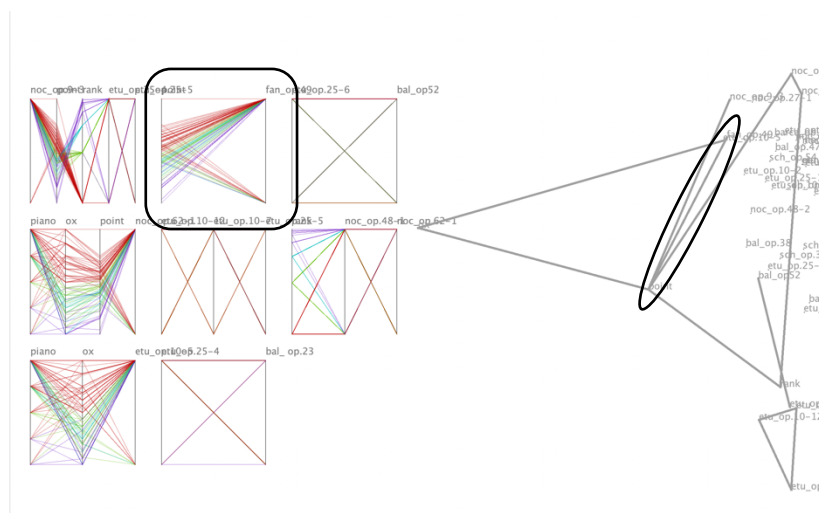
また、一次予選を突破したコンテストに関しては、point の方が、色分けが綺麗に見える一方で、ox は色分けが綺麗に見えないところから、point は ox よりもぶれにくく、コンテストの(ショパン国際コンクールで評価される)実力を表すことができると考えられ、予選を突破できるかどうかは ox でわかる一方実力は point でわかるということと言える。

【4. point と noc_op9-3】



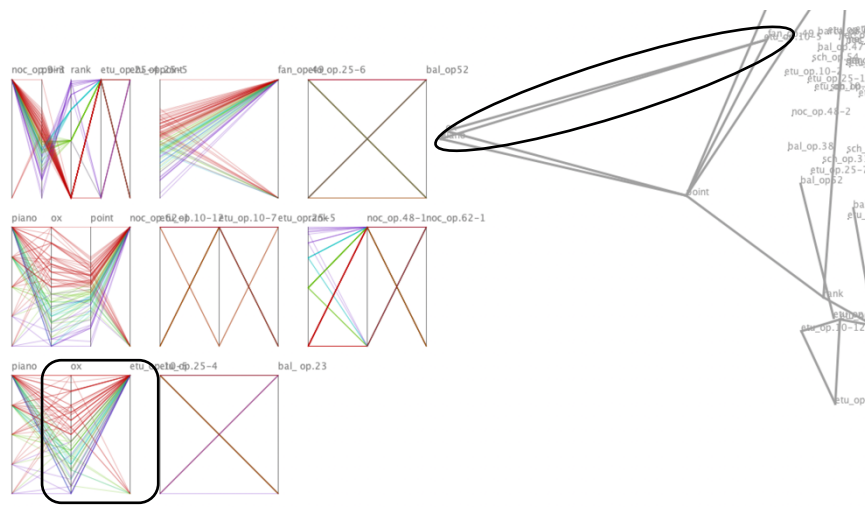
また、上記の散布図の黒枠から point とノクターン op9-3 に相関があることがわかり、PCP の黒枠から、ノクターン op9-3 を選んだ場合は、点数が、真ん中よりも少し低めになりカテゴリ stage から一次予選は突破できていないことがわかる。ちなみにノクターン op.9-3 はショパン初期のノクターンの傑作であり、ショパンのノクターン名曲の原点とも言われるような op.9 の集大成とも言える作品である。今までの結果から、ノクターン op9-3 は審査員の好みに応えることが難しい可能性が高いことがわかる。

【5.point と fan_op49】



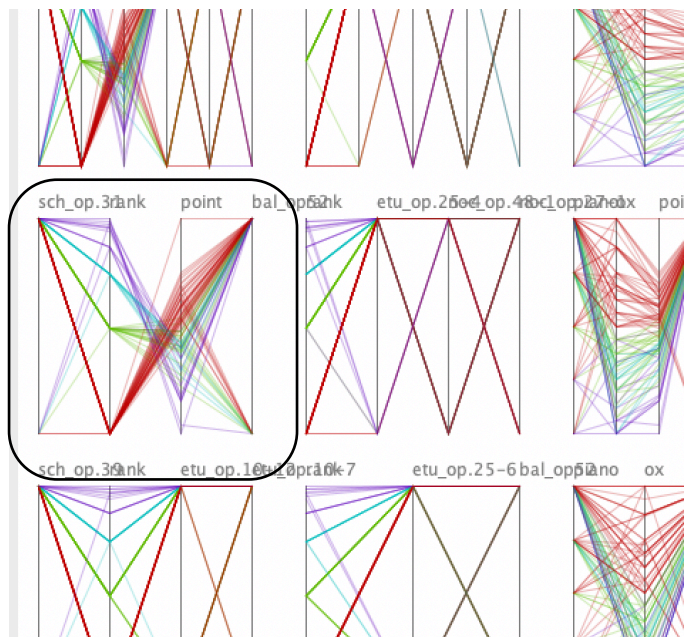
さらに、上記の散布図の黒枠から point と幻想曲 op49 に相関があることがわかり PCP の黒枠から、幻想曲 op49 を選んだ場合は、中の下から中の上くらいまでの点数を得られて、高得点は取りづらいことがわかる。カテゴリ stage から幻想曲 op49 を選んだコンテストの中にはファイナルまで進んだ人もいたので実力はあるものの、幻想曲 op49 を選んだことによって点数が低くなってしまった可能性があると考えられ、幻想曲 op49 は審査員の得点審査が厳しくなりやすいと考えられる。

【6. ox と etu_op10-5】



上記の散布図の黒枠から piano と ox とエチュード op10-5 に相関があることがわかる。PCP の黒枠から ox とエチュード op.10-5 を選んだ場合、ox の値が低いものも高いものも存在することがわかる。カテゴリーstage を利用すると、エチュード op.10-5 を選び、高い ox を得られていてもファイナルまでは進めていないことがわかる。ここから、エチュード op.10-5 は ox が高くなりやすく、実力の低い人は、順当に低く ox がつくが、ある程度の実力がある場合は、実力以上の ox を得られる可能性があるということがわかり、エチュード op.10-5 を選曲すると有利になる可能性が高いことが言える。エチュード op.10-5 と言えば黒鍵のエチュードという愛称でも有名あり名前の通り黒鍵のみで弾く曲になるが、ショパンはこの曲に対して「この曲は、黒鍵ばかり弾く曲だと知らなければ何も音楽性のないつまらない曲」と言っただけらしい。難易度は高いとは言えないが、ショパンの言った「つまらない曲」に味付けする力が評価につながるのではないかな。

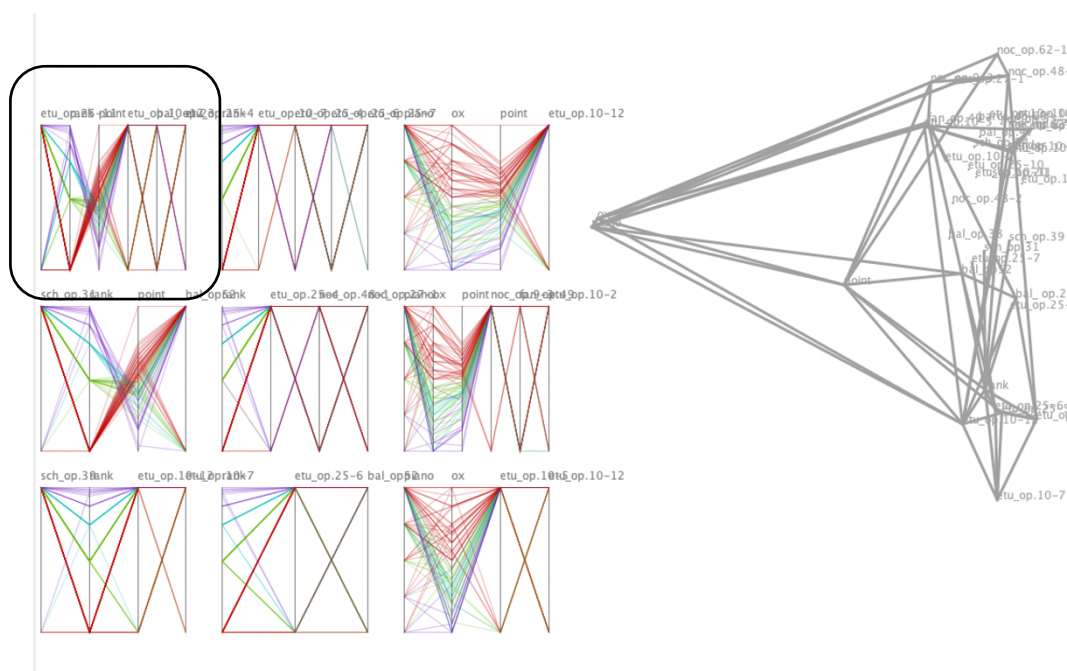
【7. sch_op.31 と rank と point と bal_op52】



上図の PCP の黒枠についてカテゴリーstage を利用して見ていく。バラード op.52 を選んだコンテストの中では一次予選を突破した人が多いことがわかる。また、一次予選を突破できなかった人の中ではスケルツォ op.31 を選んだ人はバラード op.52 を選んだ人に比べて少ない。一方で、ファイナルまで進んだ人ではバラード op.52 を選んだ人はスケルツォ op.31 を選んだ人に比べて少ない。スケルツォ 第 2 番 op.31 は作曲したときにショパンは恋愛のいざこざで苦悩していて、音

楽活動も多忙であったと言われている。スケルツォ第 2 番はショパンの中でもとても有名な曲だが、この曲に対して弟子のカール・フィルチは「魂が奪われる曲」と表現したり、シューマンは「バイロン卿の詩に匹敵するほど、優しく、大胆で、愛情深く、また軽蔑的な曲だ」と表現していて、ショパン独自の感情表現に富んだ曲となっている。一方、バラード第 4 番 op.52 は、羽生結弦選手が曲に使用したバラード第 1 番に続く、第 4 番の曲であり、技術的にとても難しい曲になっている。ファイナリストが、バラード第 4 番 op.52 よりもスケルツォ第 2 番 op.31 を選んでいる人が多いのは、技術を見せつける曲よりも表現力を見せつける曲を弾いて評価を得ている、また、表現力がある人間が評価されやすいということが考えられる。(技術面ではプロ通しではあまり差が出づらく、個性や生き様が出る表現力の方で競う傾向があるということだろうか。)

【8. etu_op.25-11 と rank と point と etu_op.10-12】



上図の PCP の黒枠から rank が上位の人はエチュード op.25-11 を選ぶ場合があるが、エチュード op.10-12 を選ぶ人はいないことがわかり、エチュード op.10-12 を選んだひとの point は低く、カテゴリー stage でも一次予選突破できなかった人や一次予選には突破できたが二次予選は突破できなかった人が多くことがわかる。つまり、エチュード op.10-12 を選曲すると、不利になることがわかる。

エチュード op.10-12 は革命のエチュードという愛称があり、誰しも一度は聞いたことがある曲であろう。また、エチュード op.25-11 は木枯らしのエチュードという愛称があり、こ

れも有名な曲であるが、何曲である。これは私が師事する先生から伺った話だが、音大入試では、ショパンのエチュードの中からランダムで曲が選ばれ、選ばれる直前に「簡単な曲はあまり実力が発揮できないからなるべく来ないでほしい…でも、エチュード op.25-11 とかは難しいからやめてほしい、エチュード op.10-12 とか op.10-4 とかがちょうどいいから来てほしい」と思うらしい。これは先生や、門下生たちの個人的な意見であるが、このような op.10-12 と op.25-11 のレベル関係はこのようであると思う。つまり、最高峰と言えるショパン国際ピアノコンクールでは op.10-12 ではなく op.25-11 などの難曲が求められる傾向があると考えられる。

(感想)

ox が予選突破の指標になっているが、実力は point に表れているという発見は面白いと感じた。このことは、上手に弾いて綺麗にまとめている、ショパンに忠実に弾いているという点だけでなく、どこか光る個性を持っている、将来性があり輝くスター性を感じるといった、「また聴きたい!」と思わせる新たな才能を見つけ出すというコンクールの意図も感じられる。評価される個性に関しては、ox と point の関係のように、好みに大きく影響を受けて、とても良いと評価する審査員もいれば気に入らないと評価する審査員もいるわけで、その時の運もあるかもしれない。また、第 16 回ショパン国際ピアノコンクールで超絶個性派ピアニストであるエフゲニー・ボジャノフのファイナル演奏後に審査員マルタ・アルゲリッチがスタンディング・オベーションを贈ったという話があるが、彼の結果は 4 位であった。このことから、個性が光っていて「また聴きたい!」と思わせたとしても優勝できるとは限らないということであり、ファイナルの採点表は公開されてなく採点方式も他と異なるのだが、ox が重視されていないことがわかり、ox だけを意識していても入賞はできないということも事実である。入賞する条件を数値化するのはかなりむずかしそうだと感じる。また、評価されやすい曲、されにくい曲がある点にも興味を持ち、選曲勝ちも期待できそうに感じるので、曲に関して、それらの共通点など、楽譜を中心に比較してみたいと思った。

(参考文献) 全て 2023 年 2 月 15 日最終閲覧

・データの出典

<https://ebravo.jp/special/featured/chopin18/stage1>

<https://tabimatch.com/chopin-competition-score-1st/>

http://www10.plala.or.jp/frederic3/competition/chopin_competition.html

・参考文献

https://ebravo.jp/special/featured/chopin18/repertoire_awards

<https://ontomo-mag.com/article/column/chopin-piano-competition03/>

<https://www.hongkong-ouchi.com/results-scores/#toc1>

<https://pia77.blogspot.com/2021/11/18final.html>

https://www.chopin.co.jp/media/chopin_backnumber/a4571

<http://www10.plala.or.jp/frederic3/work/nocturne.html>

<https://chopin-ongaku.com/etude/>

<https://enc.piano.or.jp/musics/467>

<https://enc.piano.or.jp/musics/465>